

区分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
分類	リスク情報等の提供
実施内容	気象情報の充実、予測精度の向上(線状降水帯の予測精度向上等に向けた取り組み強化)
実施主体	新潟地方気象台

【取り組み状況】 予測精度向上を踏まえた情報の提供を早期に実現するため、水蒸気観測等の強化、気象庁スーパーコンピュータの強化や「富岳」を活用した予測技術の開発等を早急に進め、線状降水帯の予測精度向上を前倒しで推進する
 令和5年度: 顕著な大雨に関する気象情報の発表タイミングを前倒しするよう改善

改善前) 線状降水帯が発生してから発表 → 改善後) 線状降水帯の発生直前(最大30分前)からも発表可能

令和6年度予定: 線状降水帯による大雨の可能性を事前に伝える対象地域を絞り込むよう改善

改善前) 地方単位(北陸地方、東北地方、など) → 改善後) 府県単位(新潟県、福島県、など)



※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえて有識者等の意見を踏まえ検討

線状降水帯の予測精度向上等に向けた取り組み計画

区 分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
分 類	⑥その他
実施内容	JETT(JMA Emergency Task Team 気象庁防災対応支援チーム)による自治体支援(災害時)
実施主体	新潟地方気象台

市町村等の防災対応の支援を強化すべく、大規模な災害が発生した(又は発生が予想される)場合に、市町村等の災害対策本部等へJETT(気象庁防災対応支援チーム)として気象庁職員を派遣します。派遣された職員は、現場のニーズや各機関の活動状況を踏まえ、気象等のきめ細かな解説を行うことにより、地方公共団体や各関係機関の防災対応を支援します。この活動は、国土交通省のTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の一員としての活動にあたります。



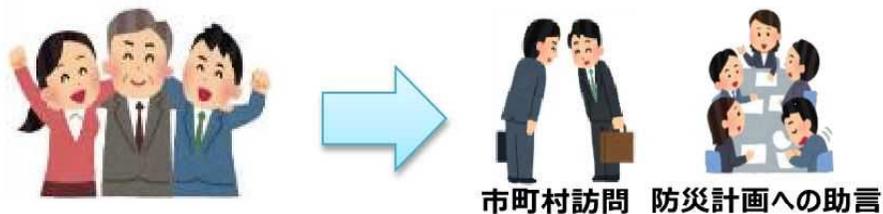
新潟県大雨災害対策本部会議(令和4年8月4日)

- **大規模な災害時に、都道府県や市町村等へJETTとして気象庁職員を派遣します。**
- **現場のニーズや各機関の活動状況を踏まえた気象等のきめ細かな解説を行います。**
- **国土交通省のTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の一員として活動します。**

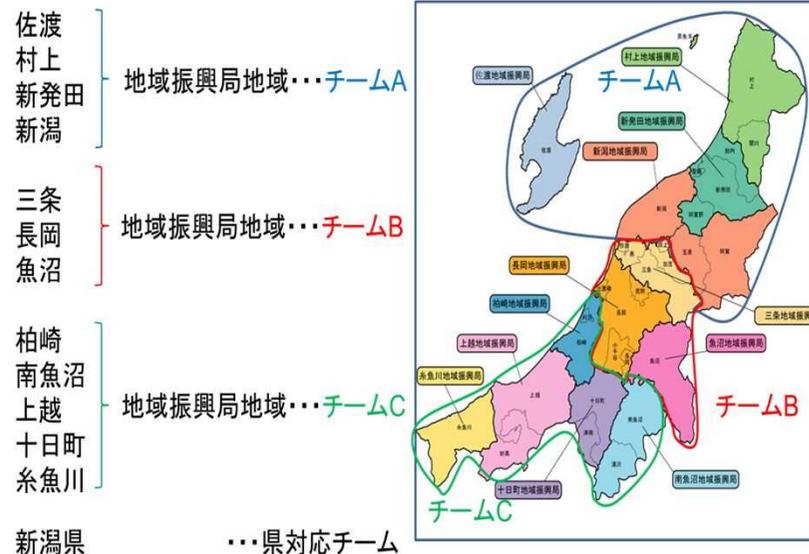
区分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
分類	⑥その他
実施内容	「あなたの町の予報官」による自治体支援（主に平時）
実施主体	新潟地方気象台

平時からの自治体支援のため気象台に、地域毎の担当チーム「あなたの町の予報官」を編成し、平時から気象台長による首長訪問、支援チームによる担当者打合せを実施し、市町村の円滑な防災対応支援を実施、市町村等との「顔の見える関係」を構築、さらに、災害時の対応の振り返り等を進め、平時・緊急時の業務にフィードバックし防災支援を充実します。

「あなたの町の予報官」



- ◆ 都道府県内を複数の市町村からなる「地域」に分け、その地域毎に3名程度の「担当チーム」を編成
- ◆ 担当チームの設置により、市町村に寄り添い、担当者同士の緊密な関係の構築が可能



- 平時から「顔の見える関係」を構築し、“ワンストップ”での支援を実施
- 地域の「我が事」感をもった防災力向上に直結する取組を、チームで推進

(取組概要)

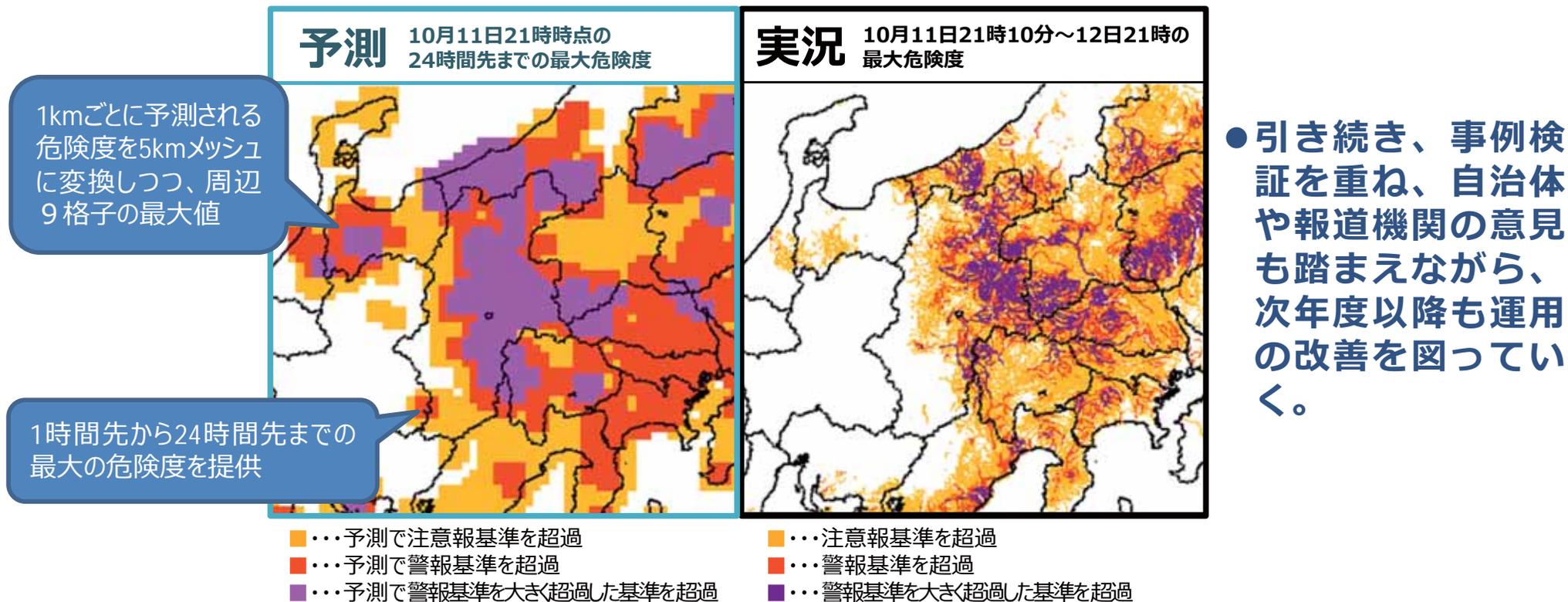
区分	ソフト対策の主な取組 情報伝達、避難計画等に関する事項
分類	気象情報発信時の「危険度の色分け」や「警報級の現象」等の改善
実施内容	最大危険度予測(土砂災害・浸水害・洪水)を用いた警戒呼びかけ
実施主体	新潟地方気象台

最大危険度予測（土砂災害・浸水害・洪水）を用いた警戒呼びかけ

これまで気象情報等で今後の雨の見通しを「予想雨量」により伝えてきたが、あわせて1日程度先までの災害危険度の分布を示すことで、雨量だけでは伝えきれなかった災害イメージを持ってもらう。

・今年度は台風事例に限って情報提供を行い、土砂災害警戒情報の基準または洪水の「基準Ⅲ」（警報基準を大きく超過した基準）の超過を広い範囲で予測している場合に、記者会見、共同取材等で警戒を呼びかける。

実際の危険度と24時間前に予想した「1日先の危険度分布」との比較（令和元年東日本台風）



●引き続き、事例検証を重ね、自治体や報道機関の意見も踏まえながら、次年度以降も運用の改善を図っていく。

いずれも洪水予報河川の外水氾濫は対象としていない。令和元年東日本台風（台風第19号）の事例を事後に検証したもの。

(取組概要)

区分	ソフト対策の主な取組 情報伝達、避難計画等に関する事項
分類	気象情報発信時の「危険度の色分け」や「警報級の現象」等の改善
実施内容	キキクル(危険度分布)の改善: 警戒レベル4相当の紫への一本化、警戒レベル5相当の黒の新設
実施主体	新潟地方気象台

- キキクル(危険度分布)の課題: 令和3年5月に災害対策基本法が改正され、避難情報に変更となったが、
- ① 警戒レベルのカラーコードとキキクル(危険度分布)のカラーコードが一致していない。
 - ② 大雨特別警報は、市町村単位で発表されるが、市町村は警戒レベル5 緊急安全確保の発令対象区域の判断が困難。



① 警戒レベルのカラーコードと一致していない。

② キキクル「黒」が無く、市町村は警戒レベル5 緊急安全確保の発令対象区域の判断が困難。

※ 大雨特別警報(土砂災害)は、土砂キキクルの技術を活用した1kmメッシュ毎の基準値は設定済みだが、大雨特別警報(浸水害)については、まだキキクルの技術を活用した1kmメッシュ毎の基準値は未設定。

大雨・洪水警報の危険度分布について今後技術的な改善を進め、警戒レベル5に相当する危険度分布「黒」を新設するまでの間、危険度分布の「極めて危険(濃い紫)」を、大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5 緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用する。(「避難情報に関するガイドライン」(内閣府))

キキクル（危険度分布）の改善（案）：令和4年度予定

- 大雨特別警報の基準値への到達を示す「災害切迫(仮)」(黒)を警戒レベル5相当として新設するとともに、これまでの「非常に危険」(うす紫)と「極めて危険」(濃い紫)を統合し、警戒レベル4相当の「危険(仮)」(紫)に一本化する。
- これにより、警戒レベルとの齟齬を解消し、警戒レベル相当情報としてより分かりやすく危険度を伝える。

現状

- 土砂キキクル
 - 極めて危険
 - 非常に危険【警戒レベル4相当】
 - 警戒 【警戒レベル3相当】
 - 注意 【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意
- 浸水キキクル
 - 極めて危険
 - 非常に危険
 - 警戒
 - 注意
 - 今後の情報等に留意
- 洪水キキクル
 - 極めて危険
 - 非常に危険【警戒レベル4相当】
 - 警戒 【警戒レベル3相当】
 - 注意 【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意
- キキクル通知サービス
 - 極めて危険【災害発生のおそれ】
 - 非常に危険【警戒レベル4相当】
 - 警戒 【警戒レベル3相当】
 - 注意 【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意

改善後

- 土砂キキクル
 - 災害切迫【警戒レベル5相当】
 - 危険 【警戒レベル4相当】
 - 警戒 【警戒レベル3相当】
 - 注意 【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意
- 浸水キキクル
 - 災害切迫【警戒レベル5相当】
 - 危険
 - 警戒
 - 注意
 - 今後の情報等に留意
- 洪水キキクル
 - 災害切迫【警戒レベル5相当】
 - 危険 【警戒レベル4相当】
 - 警戒 【警戒レベル3相当】
 - 注意 【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意
- キキクル通知サービス
 - 災害切迫 【警戒レベル5相当】
 - 危険 【警戒レベル4相当】
 - 警戒 【警戒レベル3相当】
 - 注意 【警戒レベル2相当】
 - 今後の情報等に留意

(参考) 新たな大雨特別警報 (浸水害) の指標、基準値設定の考え方

大雨特別警報 (浸水害) の基準値設定に用いる災害

「防災気象情報の伝え方に関する検討会」の令和元年度報告書 (令和2年3月31日) において、
 新たな基準値は「**大規模な床上浸水等を引き起こす水害**」を基に設定するとの方向性

「50年に一度の値」に代わる指標として検討



基準

IV

特別警報の指標
に用いる基準値

大規模な浸水害を高い確度で適中させるよう指標、基準値を設定

中小河川氾濫に起因する大規模な浸水害を適中させるように流域雨量指数の指標、基準値を設定

洪水キキクル「災害切迫」(黒)の判定に用いる。

内水氾濫に起因する大規模な浸水害を適中させるように表面雨量指数の指標、基準値を設定

浸水キキクル「災害切迫」(黒)の判定に用いる。



大雨特別警報 (浸水害) の新たな指標 (案)

基準値以上となる 1 km四方の格子が一定数以上まとまって出現する状況

※ 新たな大雨特別警報 (浸水害) の発表条件等の詳細は別途、ご連絡します。